



Compassionと珠玉の名訳（1）



医療法人パリアン理事長 川越 厚

父は英語の通訳者だった。学生時代、僕はその父を恥ずかしく思っていた。“反米”を口にしない学生は、周囲から白眼視されていた時代だ。そんな時代だから、父が海兵隊岩国基地で働いていること自体、僕には苦痛だった。

父は心筋梗塞のため59歳で逝去したが、その一民間人の訃報を昭和49年10月7日付の多くの朝刊紙（朝日、読売、毎日、中国各新聞）が報じた。「川越研三氏は、風俗の違いが日米のトラブルのもとになると考え、米兵らに日本の風俗や習慣を教えていた」と、通訳者としての父の働きを高く評価していた。岩国城などの史跡を紹介した英文を父が作ったことはそれ以前からよく知っていたが、父が日米の立派な架け橋となっていたことは、その記事を読んで初めて知った。通訳という英語は interpret であるが、この言葉には説明するとか説き明かす、という意味があり、通訳者は単に日本語を英語に置き換える、というような単純作業を行っているのではないことが、よくわかる。その意味から、父は立派な通訳者だったのだろうと思う。

英語力では父を超えられなかったが、僕には日本を代表する同時通訳者の友人がたくさんいる。パリアンにも英語の堪能な看護師はいるが、どうしても正確な通訳が必要な時には彼女たちが力になってくれる。

以前ホスピスハウスのKenと一緒に厚生労働省の矢島健康局長（当時）の所を訪問し、米国のホスピスケアについて説明した際には、パリアンで実習した医学生（当時）の伊藤明子さんが力になってくれた。彼女はレーガン大統領の就任演説で同時通訳を務めたほどの人だが、華奢な体でよくあれだけのバイタリティーがあるなど、いつも感心してきている。しかも非常に多才。英語だけではなくイタリア語の同時通訳を行うこともでき、



医学部を卒業した今は、東大で小児科医として研修を受けている。先日もある会で同時通訳をしていた彼女に遭遇し、思わず「医師と同時通訳。どちらが本職？」と聞いてしまった。笑って答えなかったが、最近ではさらに力が余っているからだろうか、料理の本まで出版している。

今回のKenの来日に際しては、伊藤さんとは別の二人の同時通訳者、近藤千恵さんと重松加代子さんが力を貸してくれた。

（次号に続く）

雑誌に掲載されたパリアンの記事と論文の紹介

老舗在宅クリニックの要はホスピスケアチームの力

「わたしの町の在宅クリニック」でクリニック川越を紹介

雑誌「がんサポート (エビデンス社) 2014年5月号」の「わたしの町の在宅クリニック」でクリニック川越院長・川越厚先生への取材記事が紹介された。

パリアンの在宅看取り率97%を支えているのが、パリアンのホスピスケアチームの総合力である。チームの連携に不可欠な患者さんの情報の効率的な共有の仕組み、ミーティングや勉強会などでの密な情報交換など、パリアンの在宅ホスピスについて紹介している。



パリアンの看護師によるレポートが連載中

●「がん看護 (南江堂)」19巻1号 (2014年1・2月号) ~在宅緩和ケア 訪問看護の現場から~事例を通して伝えたいこと~

1. 一度は訪問看護を経験してみよう(川越博美)
2. 最期の日々を生きるがん患者を支える

~ひとり暮らしの在宅緩和ケア~ (高橋寿美代)

このレポートは、まだまだ続きます。どうぞ、お楽しみに!



●「コミュニティケア (日本看護協会出版会)」15巻10号 (2013年9月号) ~訪問看護師ががん患者になって考えた 死にゆく人に寄り添い支えること (川越博美)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 人生の危機は突然に | 5. 訪問看護事業の始まり |
| 2. 与えられた命を精一杯生きる | 6. 解放に導く看護師の働き |
| 3. 入院の日々を思う | 7. “真実を分かち合う” ことの大切さ |
| 4. 患者として入院中に思ったこと | (連載継続中です) |



パリアンフェイスブックページがオープンしました



2014年4月1日よりパリアンのフェイスブックページがオープンしました。

これまでのブログよりも、わかりやすく便利に、最近のパリアンの活動を見

ることができます。もし、気に入ったなら「シェア」や「いいね」してくださいね!

パリアンのホームページからのリンクでも開くことができま

■アクセス方法

・URL [http:// on.fb.me/ljJiff0](http://on.fb.me/ljJiff0)

・QRコード



ラジオ日経 「日曜患者学校~川越厚のがんからの出発~」放送中

・川越厚先生出演 ラジオ日経「日曜患者学校~川越厚のがんからの出発」

毎月第2日曜日 21時~21時30分(今月は5月11日) 短波放送・ラジオ NIKKEI 第1

放送終了後は、ラジオ日経のホームページ(<http://www.radionikkei.jp/inochi/>)で

いつでも聴くことができます。

患者さんのお孫さんが「心に残る医療」体験記コンクールで優秀賞

パリアンの在宅ホスピスケアを受けた患者さんのご遺族から川越厚先生あてに封書が届いた。封書の中には、患者さんの孫娘さんが日本医師会・読売新聞社主催の第32回「心に残る医療」体験記コンクールにおいて、中高生の部で優秀賞に選ばれたことを知らせる手紙と新聞の切り抜きが入っていた。

記事は、末期がんの祖母を在宅で看護から看取りまで携わったパリアンの医師や看護師との日々を綴った「最高の医療、ホスピス」と題する体験記が入賞した喜びの音が載っており、その中で「最高の医療だった。ホスピスがもっと注目されてほしい」と語っていた。

新スタッフ紹介

自宅で患者さんの笑顔を引き出すお手伝いを 看護師 成澤智恵子

4月に入職しました成澤（なりさわ）智恵子と申します。

駅前の地図を眺めていたら、通りすがりの方に「お嬢さんどこに行くんだい？この辺りは碁盤の目だから大丈夫だよ、頑張っ！」と声をかけていただき、地域の温かさを感じております。

訪問看護に興味を抱いたのは、看護学生の時にお会いした患者さんの言葉です。「自宅に帰って家のお風呂にはいりたいなあ。」と日々語っておられました。しかし、その願いを叶えることはできませんでした。その時の無力感を心の片隅に置きながら、がん専門病院やリハビリ病院を経て、パリアンとのご縁をいただきました。

慣れ親しんだ自宅で過ごされている患者さんの表情は、病院とは違いとても穏やかに感じられます。患者さん、関わる皆さんの笑顔や穏やかな時間を引き出せるよう、お手伝いさせていただきます。

「人との関わり」は看護師として大切なテーマ 看護師 和田美保

はじめまして。私は高校生の頃、入院した時に会った看護師さんに励まされ、私も人を励ますことができたらと思い、看護師になることを決めました。看護師との関わりにより自分の人生の方向性を決めた経験から、看護師という存在は患者さんに大きな影響を与えるものであることを感じました。そして、「人との関わり」は、私の看護師としての大切なテーマとなり、そこから生まれるものの大きさや素晴らしさを感じられることは、今までこの仕事を続けてきた私の支えにもなっています。

今回、パリアンで働かせていただくことになったのも、ここでの実習においていろいろな方々との関わりと学びがあったからです。これからも新しい出会いがたくさんあるでしょう。その出会いに感謝しつつ、関わりの中で学ばせていただきながら、その方々がかけがえのない人生を生き抜くお手伝いを少しでもすることができればと思います。

自然と笑顔になる対応を心がける

事務員 大八木広美

皆様、こんにちは！3月24日よりパリアンの一員として勤務しております事務員の大八木広美と申します。

パリアンの新住所「墨田区立川」は私の地元で、子供の頃は事務所近くの中和公園で毎日走り回っていました。そんな地元で勤務出来ることを幸せに思っています。

来院される患者様、電話でご連絡いただく方々が自然と“笑顔”になるような対応を心がけて勤務してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

スタッフとの協働作業を

江口 勇

私の主な仕事は、ボランティアコーディネーターの助手や事務ボランティアとしてパリアン通信を編集発行することです。もうひとつやりたいことは、患者さんに対するスタッフとボランティアの協働作業を見直して、ボランティアの活動をより活発にしたいということです。そんな思いで勤めてまいります。

平成26年度第1回ボランティアの集い開かれる

平成26年度第1回ボランティアの集いは4月26日10時30分から、墨田区立川2-1-9 KHハウス1階研修室で、16名の参加で行われた。集いは最初に特別講話として、国立保健医療科学院・成木弘子先生をお迎えして「笑いヨガ」の話と、2名のラフターヨガ・リーダーによる実践が行われ、「笑いが体操」と思ってやっているうちに、心の底から笑いが爆発した1時間30分だった。

その後、ボランティアの25年度の活動総括と26年度の活動計画が、各ボランティアリーダーによって報告された。

訪問ボランティアからは、訪問する患者さんが減少したため活動機会が減少しているの、何とか活動機会が増えることを期待しているという報告があった。デイホスピスからは、毎週金曜日の活動を続けているが、5月から名称を「サロン・ド・パリアン」とし、お呼びするお客様はパリアンの患者さんと家族を中心とするが、NPO法人「あこも」が実施した「がんサロン・さくら」の出席者に声かけするとともに、広く出席者を募ることとなったことが報告された。メモルの集いは、移転により会場が広くなったことで、1回に呼ぶご遺族の人数を増やし、開催回数を2回とすることになり、詳細は検討することになった。命日カードは、偶数月の第3木曜日に、一周忌をお迎えしたご遺族に命日カードを書く活動をし、手作りは第4火曜日の活動日にメモルの集い、クリスマス会、来賓のプレゼント用のグッズ製作をしており、いつでもお手伝いを募集しているとのことだった。事務はパリアン業務をいかに手助けできるかとパリアン通信の充実について話があった。

パリアンは家で過ごしたいがん患者様とご家族をチームで支援しています

ご自宅で過ごしたいと願っている方は、是非ご相談ください。

サービス提供区域：墨田区、江東区、江戸川区、台東区、中央区、千代田区、葛飾区 にお住いの方

医療法人社団パリアン

〒130-0023 東京都墨田区立川2-1-9 KHハウス3階

まずは、相談日をご予約ください

(電話) 03-5669-8302 (FAX) 03-5669-8310

(予約受付時間) 月～金 9:30～16:00

・病院の関係者様へのお願い

ご自宅で過ごしたいと願っている患者様とご家族様がいらっしゃいましたら、上記パリアンをご紹介くださいますよう、お願い申し上げます。

【パリアンのホームページ (<http://www.pallium.co.jp>) にも在宅ホスピスケアについてご案内しています】

4月のスタッフ勉強会等の概要

パリアン事例検討

精神疾患をもつ末期がん患者さん。生活保護を受けての一人暮らし。病状の進行に伴い、トイレに行きたいなど夜間の緊急コールが多くなって、看護師が夜間の訪問する回数が増えた。要介護度の区分変更を申請し、定期巡回・随時対応型訪問介護の導入を検討する。

デスカンファレンス

入院が難しいほど暴言・暴行をふるい、医療者が訪問するとますます興奮して、ケアができない状態の末期がん患者さん。看護師は娘さんが介護することを支え、その辛さを共に担うことしかできない時もあった。モルヒネや精神安定剤などの投与により、徐々に興奮もおさまり、最期は家で娘さんに看取られた。「病院でも困り果てていた母を家で看取ることができて、パリアンの皆さんに感謝しています」と娘さんの言葉。なぜ興奮状態になるのかの医学的アセスメントの大切さと“not doing, but being”の大切さを学んだ事例だった。

5月のスタッフ勉強会等の開催予定日（ボランティアも参加できます）

パリアン勉強会 : 5月16日(金) 17～18時
 デスカンファレンス : 5月23日(金) 17～18時



5月のボランティア活動予定

- ・訪問ボランティア : 5月9日(金) 午後2時30分～
- ・サロン・ド・パリアン (がんサロン) ボランティア :
5月2日、9日、16日、23日 (30日は休み)
- ・手作りボランティア : 5月27日(火) 午後1時～3時
- ・事務ボランティア : 5月24日(土) 午後1時～



第3回ボランティア活動に役立つ「お菓子作り講習会」の開催

開催日時: 5月13日(火) 13時30分～ 場所: KHハウス1階研修室 作るお菓子: シュークリーム
 費用: 300円程度 参加希望者はメールまたは FAX にてボランティアコーディネーターに申し込んでください

編集後記

昨年度からパリアン通信がボランティアパリアン会報から衣替えして、パリアンの機関紙に昇格した◆だが、再出発当時から記事の内容がボランティア関係に偏っていて、パリアンの機関紙の体を保ってきたのは、トップ記事の川越理事長の記事だけだったように思う。言い訳を言わせてもらうならば、記事を書いているのがボランティアで、スタッフの動向が全く掴めないからだ。もっとパリアンスタッフに密着しないとスタッフの記事は書けない◆パリアンスタッフ特に看護師グループはとても多忙である。月・水・金のミーティング、そして訪問看護に出発、帰ってきて患者さんの様子などの報告書の作成、スタッフ勉強会など◆そうはいつでも、看護師さんの動向を載せないと機関紙と言えないだろう。できるだけ動向の記事したい。そう思って4月のスタッフ勉強会等に出席してみたが、症例や振り返りなど医療スタッフでないと理解できない内容だった◆しかし、われらパリアン通信編集者も勉強したり、看護師さんにインタビューしたりして、スタッフの活動状況を記事にしていきたい。



私たちと一緒に活動しませんか？



ボランティアグループパリアンは、最期のときをご自宅で過ごしたいと願うがん患者さんや家族の暮らしを、パリアンのスタッフと共にチームで支えます。在宅ホスピスケアのボランティアとはどういうものなのかを広く知っていただき、パリアンでボランティアとして一緒に活動しませんか？

《パリアンの活動はホームページやブログ・フェイスブックをご覧ください。

[パリアン](#)

[検索](#)

をクリック》

■対象 **在宅ホスピスケアに興味があり、
ボランティア活動を希望する方**

■日時 (第1回) 平成26年 6月21日(土) 10:00~16:00
(第2回) 平成26年 11月29日(土) 10:00~16:00

■会場 **医療法人社団パリアン
(東京都墨田区立川 2-1-9 KHハウス 1階研修室)**

■講座概要 1 パリアンの在宅ホスピスケアについて
2 チームケアとパリアンボランティアの活動紹介

■募集人員 10人(先着順で定員になり次第、締切ります)
《応募いただいた方には事務局からご連絡いたします》

■受講料 500円(資料・昼食代として)

■申込締切日 (第1回) 平成26年 6月14日(土)【必着】
(第2回) 平成26年 11月22日(土)【必着】

■申込方法 氏名、性別、年齢、住所、連絡先電話番号を記入の上、
下記申込先にFAXまたはメールにてお申込みください。

■申込先・問合せ先 医療法人社団パリアン ボランティア講座事務局
FAX:03-5669-8310/TEL:03-5669-8302
e-mail:volunteer@pallium.co.jp

1. 日時：5月からの毎週金曜日（祝日以外） 12時～13時
2. 場所：パリアン1階研修室（墨田区立川2-1-9 KHハウス）
3. 参加者：がん患者と家族（1回あたり6名まで）
パリアンの医師・看護師・ヘルパーなど同席させていただきます
4. プログラム
 - ・お話（医師・看護師・ケアマネジャー・ボランティアなど）や音楽
 - ・昼食をとりながらの語らい
5. 参加費：500円（昼食+デザート代）
6. 申込方法：電話・ファックス・メールいずれかでお申込み下さい
毎回開始日の2日前（水曜日）までにお問い合わせいたします
☎03-5669-8302 FAX03-5669-8310
✉ volunteer@pallium.co.jp
7. 担当：パリアンボランティアコーディネーター 川越・江口



■都営大江戸線・新宿線森下駅
A5出口より徒歩6分

■都営バス（亀戸～豊海水産
「千歳三丁目」停留所より
徒歩6分

■すみまらくん 南部ルート
「元徳稲荷神社入口」
停留所より徒歩3分